

特別展

作家たちの 交差点

「北の話」が残した時間

2020年 8/22(土) ~ 11/15(日)

開館時間 / 9時30分~17時(入場は16時30分まで)
 休館日 / 毎週月曜日(9月21日・11月2日は開館、9月23日(水)
 観覧料 / 一般500(400)円、高大生250(200)円、
 中学生以下・65歳以上無料
 * (一)内は10名以上の団体料金およびリピーター割引料金
 主催 / 北海道立文学館 公益財団法人北海道文学館 北海道立文学館指定管理者 北海道新聞社
 後援 / 札幌市、札幌市教育委員会

中島公園 北海道立文学館 特別展示室

〒064-0931 札幌市中央区中島公園1-4 TEL. 011(511)7655
<http://www.h-bungaku.or.jp/>



1963(昭和38)年12月「赤煉瓦周辺の雑誌」として始まった「北の話」はその後「北海道を旅する手帖 北の話」となり昭和を駆け抜け、1997(平成9)年12月、通巻202冊をもって35年の歴史を閉じました。

道内外の作家、随筆家、詩人、歌人など多くの執筆者により北海道のさまざまな魅力を伝え続けた随筆誌は、発行部数が約6万部と多くの人々に愛されました。

終刊から20余年が過ぎたいま、掲載された作家たちの息遣いが聞こえてきそうなオリジナル原稿や、表紙絵・挿画などをもとに「北の話」の魅力を紹介します。

特別展

作家たちの 交差点

「北の話」が残した時間



「北の話」選集
津田遯子編
(2000年、北海道新聞社)



写真提供:北海道新聞社



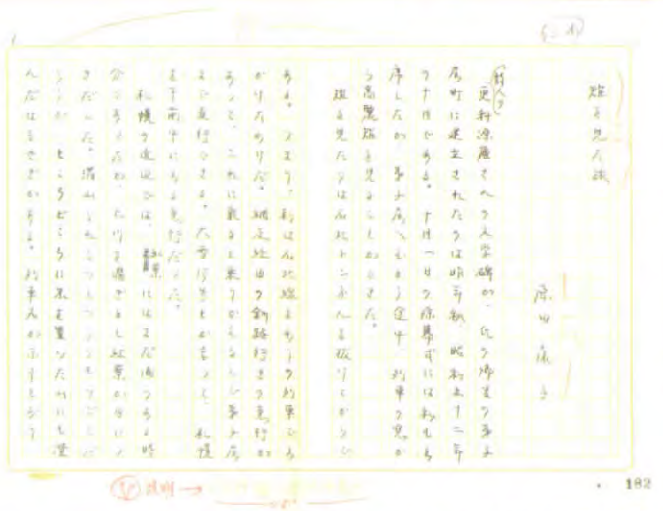
写真提供:北海道新聞社

八重樫實(やえかし・みのる)

1923(大正12)年、札幌生まれ。33年、旧満州(現・中国東北部)に家族とともに渡り、旧制大連一中卒。満鉄勤務、応召を経て戦後、札幌に戻り、道庁や新聞社などに勤務する一方で小説を発表。60年に津田遯子と結婚。「凍原社」を設立し、63年12月に「北の話」を創刊するとともに、編集人を務め、97年12月の終刊まで発行に携わる。著書にスピードスケートに材を取った小説「冬の燕」(1974年刊)など三部作。99年11月、76歳で死去。

津田遯子(つた・ようこ)

1936(昭和11)年、東京生まれ。疎開した秋田県で少女のころから詩を書き始め、のちに西條八十主宰の詩誌「ポエトピア」に参加し同人となる。57年、札幌へ。60年に八重樫實と結婚し、63年12月の「北の話」発刊とともに発行人を務める。99年、八重樫實の死去にともない、同社代表に。2000年、「北の話」掲載のエッセー75編を収め、編者として「北の話」選集」を北海道新聞社から刊行。詩人として詩集「雪明り」(1968年刊)などの著書がある。



原田康子自筆原稿「雉を見た旅」/「北の話」83号(1978年2月)掲載



加藤幸子自筆原稿「東京の雪と札幌の雪」/「北の話」122号(1984年8月)掲載

【会期中のイベント】

対談 「いま、『北の話』を語る」

出演 乳井洋一(北海道新聞OB)、金子国彦(北海道新聞OB)

日時 9月5日(土) 14:00~15:00

場所 北海道立文学館 講堂

聴講無料 定員25名(事前予約制)

*お電話(011-511-7655)にてお申し込みください。8月21日(金)9時より受付。

朗読会 『「北の話」を聞く』

出演 安藤千鶴子(音声表現講師・元HBCアナウンサー)

日時 10月11日(日) 14:00~14:45

場所 北海道立文学館 講堂

聴講無料 定員25名(事前予約制)

*お電話(011-511-7655)にてお申し込みください。9月25日(金)9時より受付。



佐藤忠良「羊蹄山・夏」/「北の話」150号(1989年4月)表紙原画

●常設展のご案内/北海道の文学(通年開催)

北の大地の厳しくも豊かな風土に育まれてきた北海道の文学。自筆資料や初版本など貴重な資料をご覧いただけます。小コーナー「常設展アーカイヴ」では《(アイヌ絵巻)と文学(〜10月4日)》、《大本端 四季の風景(10月20日〜)》を紹介。観覧料:一般500(400)円、高大生250(200)円()内は10名以上の団体料金

65歳以上、中学生以下無料 高校生は土曜日無料

*お得な特別展・常設展共通チケット800円もあります。詳細はお問い合わせください。

●次回展(ファミリー文学館)のご案内

「おいしい!美味しい!文学」12月12日(土)~2021年3月7日(日) 観覧無料

ご来館のお客様へ/入館にあたってのお願い

- ◇発熱や体調不良等の風邪症状のあるお客様はご来館をお控えください。
- ◇館内入口にて検温を行います。37.5℃以上の発熱が認められた場合、入館をお断りします。
- ◇咳エチケット・ソーシャルディスタンスにご協力ください。
- ◇マスクの着用をお願いします。

緊急連絡先記入のお願い

来館者や職員に新型コロナウイルスによる感染者が発生した場合に、その事実を皆様にお伝えするため連絡先の登録をお願いしています。

北海道立文学館

〒064-0931 札幌市中央区中島公園1-4

交通案内:地下鉄南北線【中島公園駅(出口③)】または

は【幌平橋駅(出口①)】から徒歩6分

市電「中島公園通」停留所下車徒歩10分

JRバス・中央バス「中島公園入口」より徒歩4分

【お問い合わせ】

TEL:011-511-7655

http://www.h-bungaku.or.jp/

施設設置者:北海道教育委員会

(教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課(TEL011-231-4111))

指定管理者:公益財団法人北海道文学館

フェイスブック、
ツイッターでも
情報発信中!

